

校長室から

令和2年2月19日

「同窓会」に参加して

1月12日(日)、成人式の祝賀会にお誘いを受けて参加させていただきました。5年前に長町中学校を卒業した赤学年の生徒達が早いもので20歳となり、とても大人になった姿に接し、感動しました。私はこの学年の生徒達が1、2年生の時に、本校の教頭として在籍し、社会科を教えていました。1年生の時に2クラス、2年生の時に2クラスの計4クラスだけでしたが、生徒達がとても明るく接してくれて、楽しく過ごした事を今でも鮮明に記憶しています。

昨年の4月に、当時の生徒会長と副会長だった2名が校長室に訪ねてきてくれて、「私達の同窓会に参加してくれませんか。」とお話を受けました。二人とも当時始まったばかりの「ともにチーム長町プロジェクト」の中心メンバーで、大活躍してくれて、しばしの間、その時の思い出話にもなりました。私は当時の学年のスタッフではありませんでしたが、よくよく考えてみると、この学年の生徒達が、私が授業を教えた最後の生徒達でした。

自分の中で、「これが最後の20歳の同窓会のお呼ばれかな」と思い、「喜んで参加させていただきます。」と答えました。久しぶりに会った元生徒達は、当時とは全く変わって大人びて、名前を確認しないと分からない子も大勢いました。逆に、当時のままで、微笑ましくなる子もいました。しかしながら外見は変わっていても性格の素晴らしさは当時のままだなあと感心し、とても嬉しく思い、色々なお話を聞くことができました。会場には、200名近くが集まっていて、旧交を温める姿や、先生方となつかしそうに語らう姿を見て、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

私は、担任だった時の生徒や学年主任だった時の生徒達が20歳の同窓会や年齢を重ねて行う同窓会に参加する機会があると、必ず彼らに質問する事があります。「社会人になって、一番何が大事?」。すると必ず彼らから返ってくる共通の答えがあります。「先生、あいさつでしょ。」今回もやはり同じでした。「あいさつでしょ。」という言葉にはもっと大切な意味があるのだと思います。今回の同窓会の中では、「学力は大切?」と聞いてみると「それはやっぱり重要です。でも学力があるかないかが問題ではなく、それをどう社会で使うかが問題だと思います。学力があっても使わなければならないものと一緒ですよ。」と答えてくれた子がいました。中学校時代、私の授業で、「先生、私は社会科がとても苦手。これは一体何になるの。」とずっと話していた子でした。

数年が経過して、様々な経験を積んでいくと、客観的に社会を捉えたり、自分を捉え直したりできるようになるのだなあと、嬉しく思いました。「でも、社会科は苦手だと言っていたよね。今はどんなふうに役立っている?」と聞いてみると、「どんなふうに役立っているかと聞かれると困るけど、教科とか合唱コンクールとかダンスとか、楽しかった事も嫌だった事も全部役立っているのかな。」と笑っていました。皆、大人になっていくのだなあと感じます。

今、受験を目指している生徒達、そして、1、2年生の生徒達は、考査の結果に一喜一憂したり、そして合否が気になったりと、とても息苦しく、プレッシャーがかかる毎日を送っていることと思います。私は、中学校時代、受験シーズンになって担任の先生から「志望校を変えたほうがいいのでは・・・。」と電話を受けた事がありました。当時は、担任の先生から電話がある事などほとんどなく、とてもショックでした。そしてその結果は・・・。

やがて、もう少し時間が経過すると、今の努力の価値や苦しみの意味が分かる時がやってくるのかなとも思います。その渦中にいるとなかなか理解できないですよ。今回の祝賀会に参加させていただき、時の経過の早さと人の成長、そして世代交代の時期が来たかなと実感しました。

